K2-37 取り扱い規約に基づく臓器奇形の肉眼診断の正誤率と問題点—DNA 多形による遺伝子診断との比較検討—
九州大 1, 国立病院機構西岡病院女性内科 1, 国立病院機構北長崎センターハララワセトニチ 1, 真田産婦人科麻酔科クリニック 1
兼美英輝 1, 小林裕明 1, 井上貴史 1, 矢開秀昭 1, 小川伸二 1, 上岡陽光 1, 園田順三 1, 和気貴雄 1, 松田貴雄 1, 加藤秀則 1,
平川俊夫 1
【目的】現行の検査法は検査データを肉眼的に読むため、遺伝子診断の正誤率と問題点をDNA 多形による遺伝子診断との比較検討
【方法】対象は臓器奇形の腫瘍を解析した 2005 年 12 月に癌総合診断センターで治療を受けていた 37 例とその 2006 年
内訳は腺瘤 13 例, 異常発瘤 12 例, 腫瘍性疾患 12 例であった。

K2-38 可溶性 VEGF レセプター 3 によるリンパ節転移を標的とした子宮体癌遺伝子治療に関する研究
自治医大
高橋栄治 1, 島矢 1, 竹村静 1, 高野和弘 1, 立田明 1, 町田静 1, 大和田倫彦 1, 鈴木光明 1
【目的】子宮体癌の最も重要な予後因子はリンパ節転移である。種々の薬でリンパ節転移を防ぐ薬が開発されているが、VGE-F
を阻害する可溶型 VEGF レセプター 3 (sFlt-4) による、リンパ節転移を標的とした子宮体癌遺伝子治療に関する基礎研究を行った。
【方法】1. 予後因子である子宮体癌腫瘍細胞株 HECIA をbcd 細胞の子宮に接種しリンパ節転移を観察した。2. HECIA 1 例
を VEGF-C を遺伝子導入し VEGF-C 強制発現細胞株 (HECIA/VEGF-C) を建立した。3. HECIA/VEGF-C と HECIA 1 例を
肩甲下で 4 mm の子宮に接種しリンパ節転移を観察した。4. HECIA 1 例を sFlt-4 を遺伝子導入し sFlt-4 強制発現細胞株
(HECIA/sFlt-4) を建立した。5. HECIA/sFlt-4 と sFlt-4 を肩甲下で 4 mm の子宮に接種しリンパ節転移を観察した。
【結論】可溶型 VEGF レセプター 3 によるリンパ節転移を標的とした子宮体癌遺伝子治療の可能性が示唆された。